

今月のスマイル



梅 かすみがうら市の農林水産物を を全国のみなさんの食卓へ ～かすみがうら市産の梅が 『常陸乃梅』としてブランド化～

6月に梅の出荷作業(JA 土浦千代田梅部会)取材し、かすみがうら市で栽培された、「石川一号」、「加賀地蔵」、「露茜」などが市場や加工業者に出荷され、全国のみなさんの食卓へ届けられているとお聞きました。(広報7月号掲載)

今回は、その出荷された梅がどのような加工品になり、みなさんに届けられているか取材しました。

ご協力いただいたのは、JA 土浦千代田梅部会と「常陸乃梅ブランド化推進協議会」を立ち上げ、茨城県産梅のブランド推進を図る活動が続ける、漬物製造販売業「吉田屋」(大洗町)代表取締役社長を務める大山壮郎さんです。

東日本大震災後、風評被害などの大きな壁にぶつかった大山さんは、震災からの復興と茨城を元気にしたいという気持ちから、茨城初の梅のブランド化を図り、全国に魅力を広めたいと思うようになり、挑戦を始めました。

大山社長：ブランド化にあたり、高品質で安定的に出荷が可能な地元の梅をどのように調達しようかと悩んでいた時、新品種「露茜」の商品化に悩んでいたJA 土浦千代田梅部会の皆さんと運命的な出会いがあり、大きな可能性を感じ、梅ブランド開発の話を持ちかけました。安定的な出荷や生産方法などの話し合いを重ねた結果、生産者の理解と協力により、「常陸乃梅」というブランドが誕生しました。



↑「吉田屋」社長の大山さん

現在は、今までにない『おいしさ』『楽しみ方』に出会える場所として、全国初となる梅専門カフェの「ume cafe WAON」をオープンし、「梅干し」のみならず、「梅シロップ」や「梅ゼリー」など常陸乃梅の魅力を発信し続けています。

かすみがうら市育ちの梅が常陸乃梅となり、全国的に知名度が高まることを期待します。

そして、みなさんも「常陸乃梅」の魅力を堪能してみてください。

～『常陸乃梅』のものがたり～



第17回世界湖沼会議を終えて 後の課題を探る

11月18日、茨城県環境科学センターにて、「第17回世界湖沼会議を終えて、その成果と課題を探る」が開催されました。本会議中の霞ヶ浦セッションや湖沼セッションの内容を中心に、実施された事業や今後の課題が報告され、今後に向けた議論を行いました。会場では「霞ヶ浦との共生には市民、行政、事業者が連携することが不可欠」などの意見がありました。



↑世界湖沼会議市民の会'18主催のシンポジウムの様子

女性に対する暴力をなくす運動 ープルリボン運動を実施

11月17日、あじさい館を訪れた多くの来館者が、市高校生会の協力により、ホールに設置されたクリスマスツリーにパープルリボンを取り付けました。パープルリボンは、女性に対する暴力根絶運動のシンボルマークとなっており、「あなたはひとりではないよ」というメッセージが込められています。



↑クリスマスツリーにパープルリボンが装飾されました

式典に出席いただいた い 受賞者の皆さん(山崎さん欠席) る 受賞者代表謝辞の様子



功労表彰

【農業委員会委員として市行政の推進に寄与】

関川 忠雄

善行表彰

【交通団体役員として交通事故防止に尽力】

斎藤 清

服部 長左衛門

山崎 律子

飯塚 恵美子

(順不同・敬称略)



↓仏像鑑賞ツアーの様子



指定文化財一斉公開 重なる歴史遺産が公開

11月10日、11日、市内11カ所の文化財所在地と歴史博物館において、「指定文化財一斉公開」を実施しました。4回目となる今年は、お茶会や陶器市、仏像ツアーなどのイベントも、大いに盛り上がりました。学生や市民学芸員による文化財ガイドも好評で、子ども大学の参加を含め3,000人を超える方が市内の貴重な歴史遺産を堪能していました。

かすみがうら市戦没者追悼式 冥福の祈りと恒久平和への誓い

11月17日、千代田講堂で「かすみがうら市戦没者追悼式」が挙行されました。来賓の方々をはじめ、遺族など約150人が参列し、先の大戦において亡くなられた960余柱の戦没者に対し、全員で黙とうを行い、哀悼の誠を捧げました。坪井市長の式辞に続き、来賓、遺族代表の追悼の辞、そして参列者全員で献花を行い、恒久平和を誓いました。



↑参列者による献花の様子



かすみがうら市表彰式 功労者などを表彰

11月30日、地域社会の発展や交通安全に貢献された方々の功績をたたえ「かすみがうら市表彰式」が行われました。受賞者を代表し、飯塚さんから「受賞者一同、身に余る光栄であり、感謝申し上げます。本日の表彰を大きな励みとして、微力ではありますが、これからも市政発展のために尽くしたいと思っております」と感謝の言葉が述べられました。